

研究(者)倫理の今:ハゲタカって何?

井出和希

京都大学学際融合教育研究推進センター

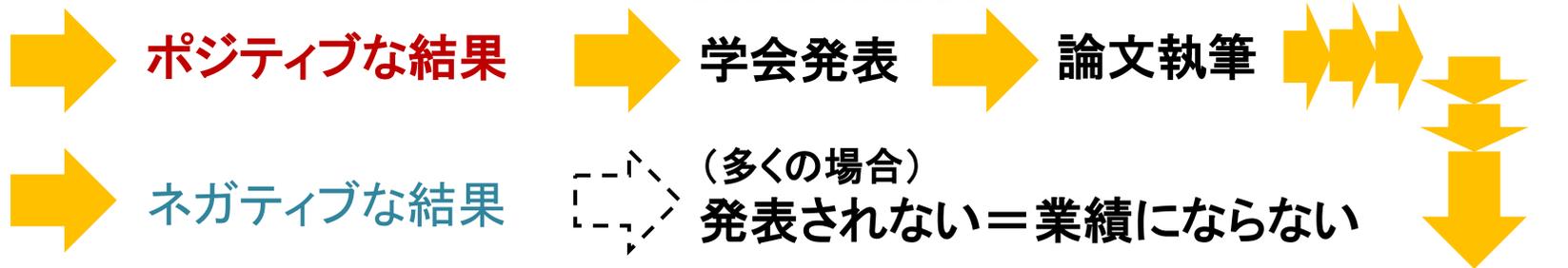


概要

□業績主義の高まりと共に研究不正問題が多く取り沙汰されています。
例えば、ハゲタカジャーナルと称されるニセの学術雑誌が現れ、日本からも論文が投稿されているような状況です。
「どのようなことが」、「なぜ」生じているのかを探求しています。

業績主義と学術雑誌

(いわゆる)業績って?—医学・生命科学系の場合—

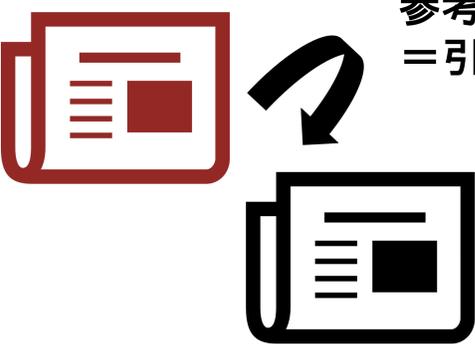


研究

基礎:細胞・動物実験
臨床:ヒト試験、健康情報の分析
などなど

「すごい」って??

インパクトファクター(IF)
という指標を頻用



参考にする =引用

すごい学術誌で発表
=高評価
=研究費が貰える・昇進

論文なかなか受理されない・・・
内容がイマイチ、そもそも英語で書けない
=低評価(研究費、雇用への影響)

自分でどの学術誌に出すかを
考えたことがない・・・

もっと巧妙な手口も(怖い・・・)

Hijacked Journal

=昔からある、そこその
学術誌を買い取ってハゲタカにする

昔からあるから、
学術誌データベース(DB)に
掲載されているから大丈夫
・・・と、思いきや

ハゲタカ雑誌の勧誘

・お金を払えばすぐ掲載
=審査をしない(楽)
・有名な雑誌と似た名前
→騙されてしまうことも
2008年ころから増加

FAKE

勧誘メールの数(私の場合)
2019年1月~9月
3,100件

2017 掲載論文数: 100

2018 掲載論文数: 100

2019 引用論文数: 600

600 / (100+100) = 3.00

IF付きだけでも

約12,000誌

分野の細分化 = 同じ領域でも互いに研究を評価できない
IFは便利な指標(テストの点数のように使える) → 無思考に妄信する危うさ
もちろん、IFが高いから絶対に正しい・すごい成果ではない

某出版社が
米国国立医学図書館のDBで
ブラックリスト入り
法的責任は問えず2019年現在も存在

動向

- ❖ 学会・研究機関における注意喚起(2019年3月 日本医学会における注意喚起)
- ❖ 論文の審査もクリアに(審査内容を公開)する取り組み(Publons) → いままでただのボランティアだった審査の動機付けにも
- ❖ 教育機会はまだまだ少ない(あくまで語り継ぐこと、他人事感)